

野口五郎岳、北アルプス裏銀座

Y. Okabe

放送大学とインターネット

放送大学長
岡部洋一

Y. Okabe

アウトライン

- 1. 最近の大学の動向
- 2. 放送大学とは
- 3. オンライン授業
- 4. SNS
- 5. 結論

1. 最近の大学の動向

Y. Okabe

卒業生の質低下

- 卒業生の質低下
  - 熱意がなくなった
  - 暗記に頼る→応用力不足
  - 従来の講義型ではほとんどの学生が落ちこぼれ
  - コミュニケーションできない
- その結果、卒業生、大学の評価が下がった

理由

- センター試験結果による大学ランキング
  - 卒業時の能力と無関係
  - 企業側はなるべく卒業時能力で採用したいのだろうが、能力チェックシステムがない

解はあるか

放送大学

- 入口は緩く出口は厳しく
  - 可能ならば入試なしが望ましい
  - 厳格な単位認定試験
  - 公平な大学レベルチェックシステム
- 学ぶ必要性を感じてからの入学がよい
- 講義形式からステップバイステップの教育へ
- コミュニケーションの下手な学生への支援



ニセコ、北海道

Y. Okabe

2. 放送大学とは

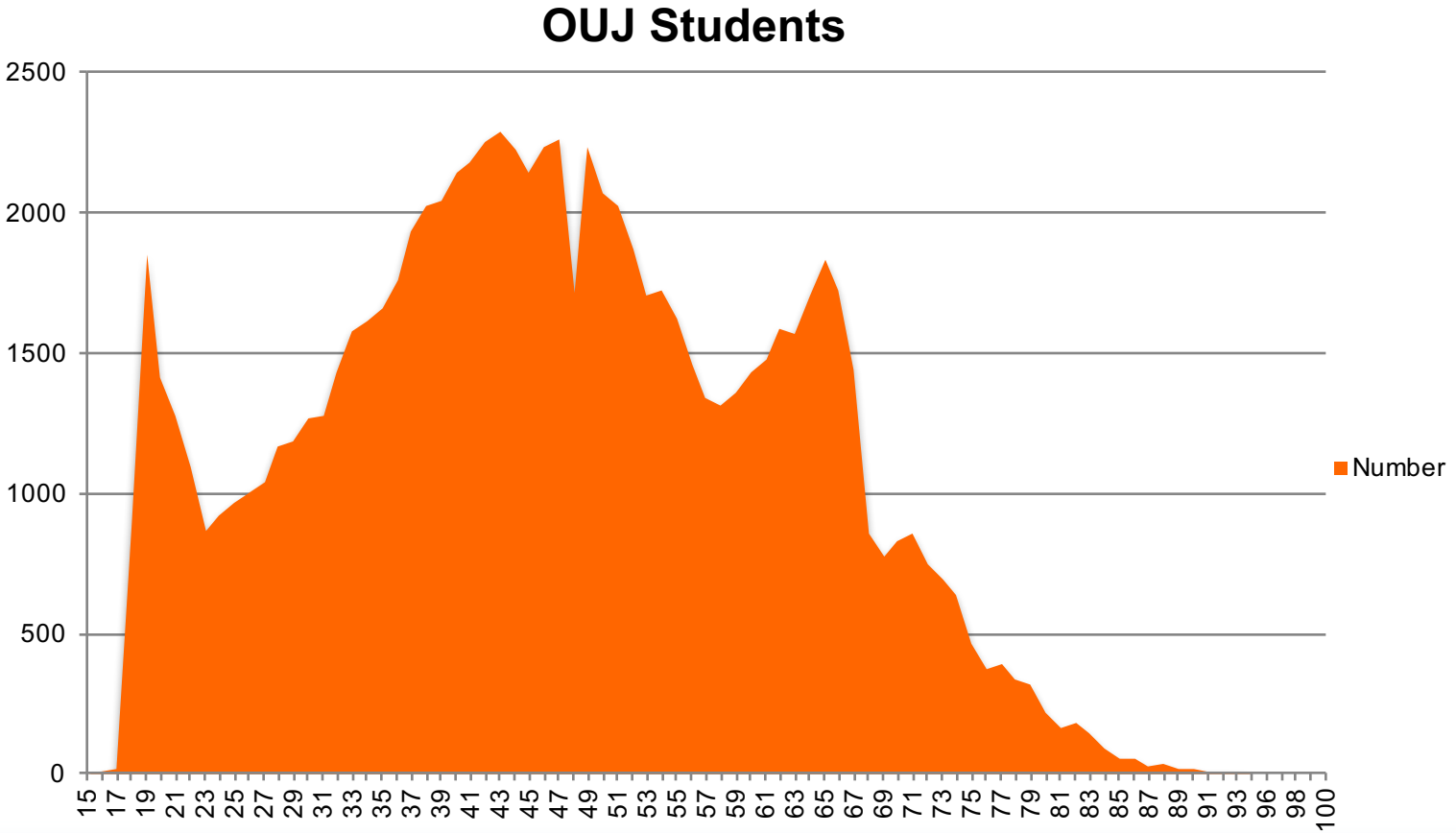
公開大学

- 議員立法で1983年設立
- 生涯学習のための大学
- 学部は入試なし（定員は事実上ない）
- 教養学部のみ
- 放送を利用した通信制大学（約20%は対面講義で）
- 当初は関東のみでそれ以外はビデオと郵便

沿革

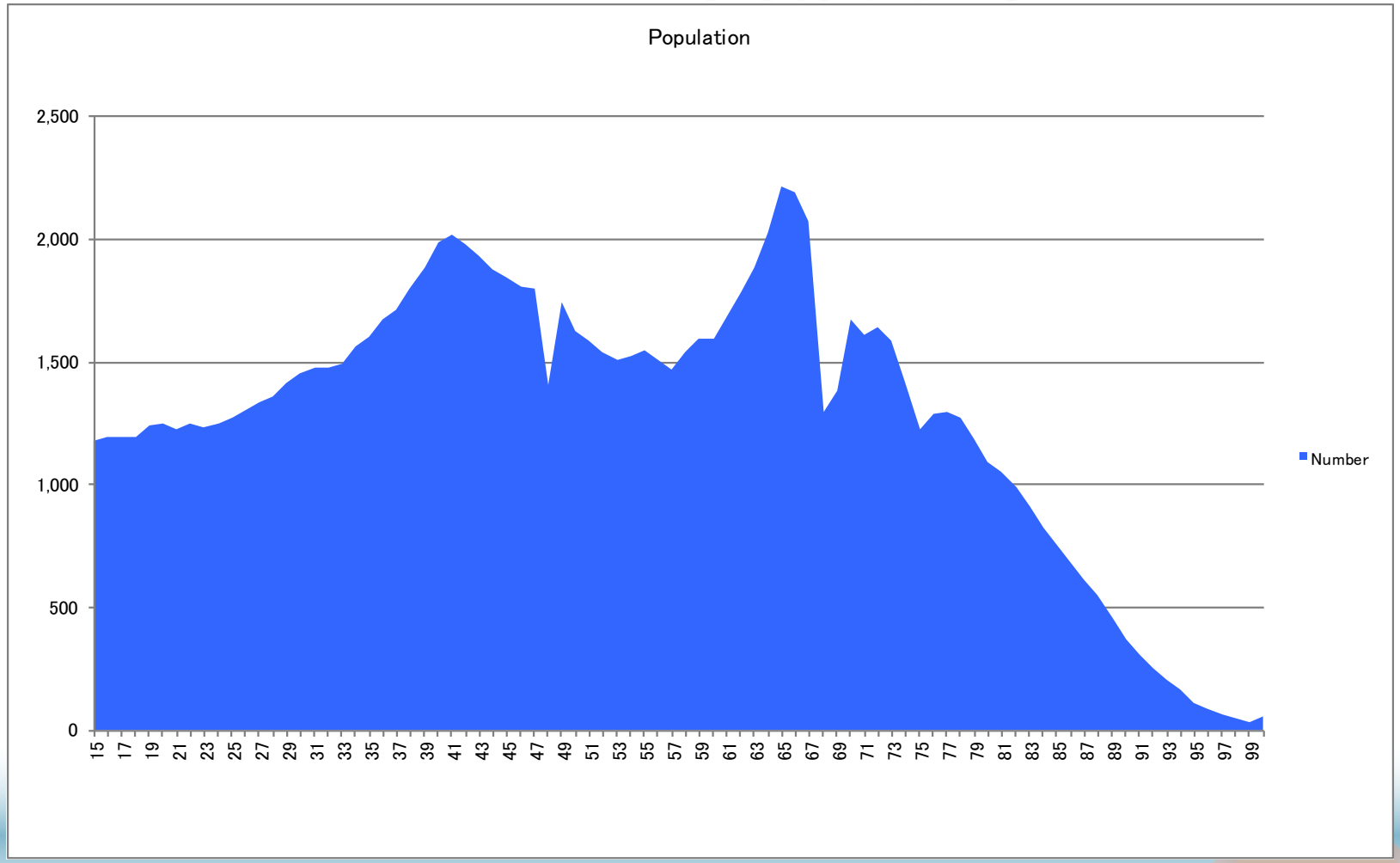
- 1998年度よりCSと50の学習センターで全国化
- 2001年度より修士課程
- 2009年度よりBS
- 2015年度より博士課程

在籍者の年齢分布



Y. Okabe

人口の年齢分布



Y. Okabe

年齢分布比較

- 総人口の約1‰
- おおよそ、人口分布に比例
- 60-100代の学生はやや少ない（2/3ぐらい）
- 40-50代の学生はやや多い（1.5倍）
- 15-18歳は少なく、18-22は多い

講義の形態

- 教養学部教養学科
- 人文学、社会科学、自然科学、生活と福祉、教育と心理、情報
- 必要単位124単位
- 取得科目は一生有効
- 放送授業（約50科目/約370科目、単位認定試験）
- 面接授業（約25科目/約2,500科目）

特長

- 厳格な単位認定試験
- 生涯学習→学習の目的が確定している
- 単位ごとに支払う（5,500円/単位）→学習意欲が高い
- 必要な科目のみ習得→卒業率は50%弱

短所

- 放送授業がほぼ完全に一方向的である
  - 教師と学生のコミュニケーションがほぼない
  - 学生同士のコミュニケーションがほぼない
  - 中間での通信指導、質問票
- 試験の日程と仕事との両立が難しい
- 教員や学生とのコミュニケーション不足



剱岳

Y. Okabe

3. オンライン講義

Y. Okabe

オンライン授業

- オンライン授業（インターネット利用教育）に解あり
- 通信制大学に適している
- ほぼどんな形の講義でも作ることができる
  - 従来の講義型、ドリル形式、議論型
- MOOCsに学ぶ
  - MOOCs: Massive Open Online Courses
  - 擬似的双方向性の確保

MOOCs

- 2008: Canada, US
- 2011-2012: 米国有名大学参入
  - 大学とは別組織として実施
  - 大学の講義レベルを公開
  - 修了証を発行
  - > 百万人が参加
  - 多くの大学が影響を心配
- 2013: 日本など各国も参入
- 2014: 米国でのブームは終了しつつある

MOOCsの実践

- 非同期型双方向教育が多い
- 数分から最大15分程度の講義の集合
- それを数回繰り返し、簡単なテストが入る
- それを十数回繰り返す
- 適宜、学生間（教員が入ることも）の議論を行なう
- テストはコンピュータ採点やレポート式

JMOOC

- 2013/10: Kick off（白井理事長が理事長、岡部が運営委員長）
- 2014/4: 数科目でスタート
- 2014/10: 十科目以上
- 2015/3: 百参加大学を計画中

MOOCsの概要

- 世界：数千科目、受講者一千万人以上
- 日本：約100科目、受講者十万人以上
- 達成率10%以下だが、あまり問題ない
  - Webのように立ち寄るだけの人が多いため
  - 欧州、日本では高い: 数十%

国別MOOCs

- 母国語の参加者は多い (from EU MOOCs)
- 各国に関する科目の選択率が多い(文化、歴史などの人文系科目)

MOOCsは終わったのか?

- 経済的問題
  - 制作に百万～千万円かかる
    米国ではすでに有料化に走っているところもある
- 大学の期待
  - 大学の宣伝のため
  - 教育手法開発

- 経済モデルへの移行
- 他の利益追求
  - 広報活動
  - 教育手法開発
  - 産業界の教育の一部を担う



パタゴニア、チリ

Y. Okabe

オンライン学習

- 面接学習との比較
- 米国ではOpenでないオンライン学習は2000年ぐらいから始まり、徐々に広がり、現在全学生の45% がオンライン学習を経験している（Moran, Seaman & Tinti-Kane, 2014)
- すでにオンライン学習を経験している大学はその有効性を評価している（same)

その他の可能性

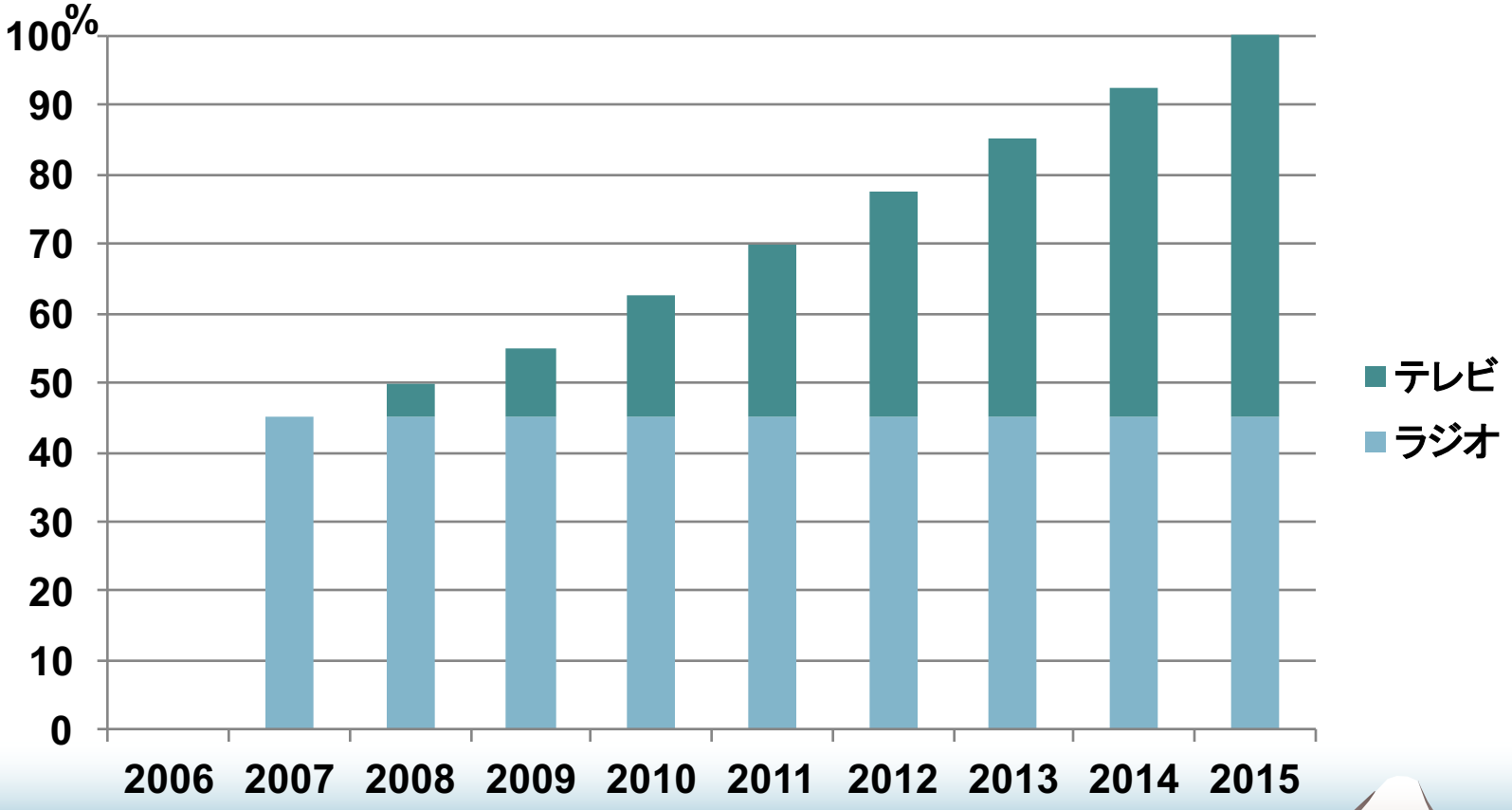
- 科目修了者からだけ授業料をとる仕組み
  - 議論などの教育や指導を受ける権利
  - 講義の評価につながる(もちろん受講生が少ないからと言って評価が低い訳ではない)
  - 学生の満足度向上
- 放送大学のように入試なしの完全「公開」大学のシステムとの相性はよいかもしれない
- インターネットによる大量教育だからできるシステムかも知れない

放送大学のオンライン学習

- 2007年度より放送授業のネット配信（一方向的）
- 2010年度より通信指導問題のWeb化（MOOCsの一部機能）
- 2014年度よりオンライン講義企画開始
  - 2015年度: 二科目（幼児保育関係）
  - 2016年度: +10科目（実験的）
  - 2017年度: +10数科目以上。暫時増加予定

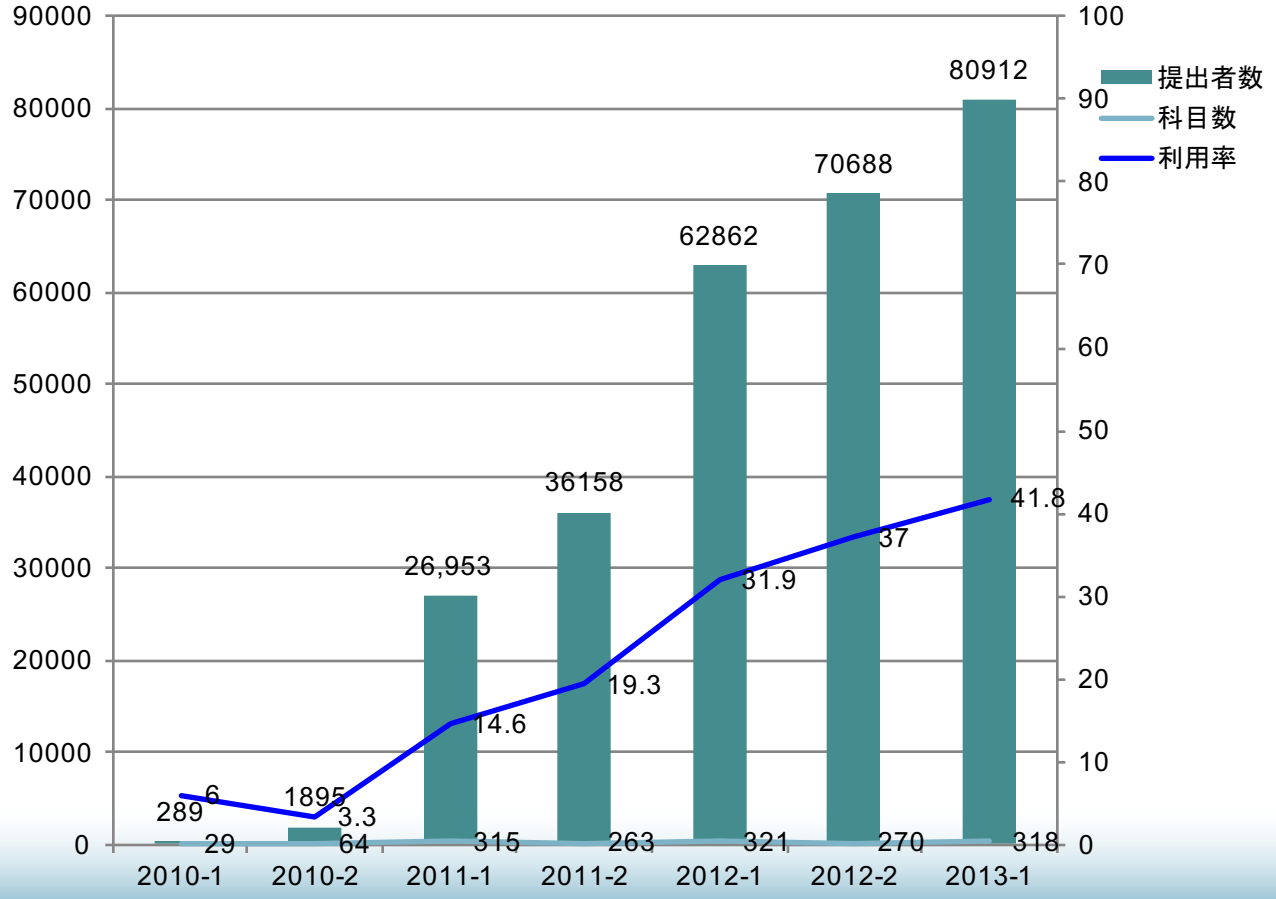
- 当分、オンライン授業は面接授業代替
- ネットに慣れていない人への対応をどうするか
- PCだけでなく、スマホやiPadにも対応する

ネット配信予定（放送大学）



Y. Okabe

通信指導 Web 提出



Y. Okabe



尾瀬、群馬県

Y. Okabe

SNSによるコミュニティー

Y. Okabe

Twitter

- 虚名多い→やや無責任
- 140文字以内の短文
- 秘匿性低い
- 即時性が高い
- 多人数の井戸端会議



__obake

Twitterの有効性

- 比較的簡単な質問と対応
- ミニ広報
- 勧誘
- クレーム

Virtual Campus

- 孤独学生の救済
- 遠隔地学生への必要性
- 各種障害者への必要性
  - 直接コミュニケーションの下手な学生への必要性
- Facebookを利用
  - 学内SNSは取っ付きにくいようだ

Facebookの特徴

- 実名登録が原則→比較的責任ある発言
- 会員制が可能→秘匿性が高い
- 新グループが作成しやすい
- 投稿記事が投稿順に並ぶとは限らない

Facebookの効果

- 明らかに（バーチャル）キャンパスとして機能あり　現在、会員数2千名弱
- オフ会、面接講義などを利用したリアルなコミュニケーションの誘導
- 数十のオンライン（さらにリアル）サークルの生成
- 事務方へのフィードバック

4. むすび

- これからは ICT が教育にもどんどん入っていくだろう
- ICT による高い教育効果は無視できない
- オンライン講義
- ICTによるコミュニケーション
- 大学改革にも繋がるだろう



水晶岳のモルゲンロート、北アルプス

Y. Okabe